

1962年 大会記録

国際

◇世界選手権（6月21～27日、米国・トレド）

《フリースタイル》▼フライ級 原田紀之（自衛隊）＝2位、▼バンタム級 八田正朗（＝2位、▼フェザー級 渡辺長武（中大）＝優勝、▼ライト級 阿部一男（丸大用紙店）＝5位、▼ウェルター級 石川忠男（東京日産）＝4位、▼ミドル級 川野俊一（自衛隊）＝3位、▼ライトヘビー級 大塚勇（法大）＝5位、▼ヘビー級 関二郎（関興業）＝二失

《グレコローマン》▼フライ級 桜間幸次（自衛隊）＝5位、▼バンタム級 市口政光（富士商会）＝優勝、▼フェザー級 岩室好純（明大）＝二失、▼ライト級 沢内敏之（専大職）＝四失、▼ウェルター級 風間貞夫（明大）＝二失、▼ミドル級 丸山彰治（文教高教）＝二失、▼ライトヘビー級 杉山恒治（明大）＝二失、▼ヘビー級 野島明生（木下産商）＝二失

◇アジア大会（8月27～30日、インドネシア・ジャカルタ）

《グレコローマン》▼フライ級 花原勉（日体大）＝2位、▼バンタム級 市口政光（富士商会）＝優勝、▼フェザー級 藤田徳明（日体大）＝優勝、▼ライト級 佐々木洋一＝優勝、▼ウェルター級 兼子隆（中大学友会）＝優勝、▼ミドル級 川野俊一（自衛隊）＝優勝、▼ライトヘビー級 高木春雄＝3位、▼ヘビー級 関二郎（関興業）＝3位

《フリースタイル》▼フライ級 原田紀之（自衛隊）＝優勝、▼バンタム級 浅井正＝優勝、▼フェザー級 渡辺長武（中大）＝優勝、▼ライト級 阿部一男（丸大用紙店）＝優勝、▼ウェルター級 兼子隆（中大学友会）＝優勝、▼ミドル級 川野俊一（自衛隊）＝3位、▼ライトヘビー級 高木春雄＝2位、▼ヘビー級 関二郎（関興業）＝3位

国内

◇世界選手権代表選考会＝フリースタイル（3月30日～4月1日、東京・青山レスリング会館）

《優勝者》▼フライ級 原田紀之（自衛隊）、▼バンタム級 利光紀（早大）、▼フェザー級 渡辺長武（中大）、▼ライト級 阿部一男（丸大用紙店）、▼ウェルター級 石川忠男（東京日産）、▼ミドル級 川野俊一（自衛隊）、▼ライトヘビー級 大塚勇（法

大)

◇世界選手権代表選考会＝グレコローマン(4月6日～8日、東京・青山レスリング会館)

《優勝者》▼フライ級 桜間幸次(自衛隊)、▼バンタム級、▼フェザー級 岩室好純(明大)、▼ライト級 沢内敏之(専大職)、▼ウェルター級 風間貞夫(明大)、▼ミドル級 丸山彰治(文教高教)、▼ライトヘビー級 杉山恒治(明大)

◇東日本学生春季新人戦(4月20～21日、東京・青山レスリング会館)

《フリースタイル優勝者》▼フライ級 吉田義勝(日大)、▼バンタム級 北尾久夫(明大)、▼フェザー級 森田武雄(明大)、▼ライト級 西森義之(中大)、▼ウェルター級 伊藤勝春(日大)、▼ミドル級 野島憲三(中大)、▼ライトヘビー級 程原健(明大)

※フリースタイルのみ

◇東日本学生リーグ戦(4月28日～6月10日、東京・青山レスリング会館)

《順位》[1] 明大(2年ぶり16度目)、[2] 早大、[3] 日大、[4] 中大、[5] 専大、[6] 慶大、[7] 法大、[8] 立大

◇全国高校選抜大会(5月3日、新潟・新潟市体育館)

《学校対抗戦》[1] 新潟・新潟商(2年連続5度目)、[2] 新潟・新潟明訓、[3] 富山・滑川、新潟・北越商

◇西日本学生春季リーグ戦(5月18～20日、愛知・名商大)

《順位》[1] 関大(5季連続15度目)、[2] 近大、[3] 名商大、[4] 同志社大、[5] 関学大、[6] 名城大

◇西日本学生選手権()

《フリースタイル優勝者》▼フライ級 金井洋佑(関学大)、▼バンタム級 山本定夫(関大)、▼フェザー級 前哲夫(同志社大)、▼ライト級 小西輝夫(関学大)、▼ウェルター級 高橋秀夫(近大)

※フリースタイルのみ

◇全日本選手権(7月12～15日、茨城・茨城県民体育館)

《フリースタイル優勝者》▼フライ級 原田紀之(自衛隊)、▼バンタム級 浅井正(中大OB)、▼フェザー級 渡辺長武(中大)、▼ライト級 阿部一男(明大OB)、▼ウ

エルター級 兼子隆（中大OB）、▼ミドル級 川野俊一（自衛隊）、▼ライトヘビー級 高木春雄（明大OB）、▼ヘビー級＝出場なし

《グレコローマン優勝者》▼フライ級 花原勉（日体大OB）、▼バンタム級 市口政光（富士商会）、▼フェザー級 藤田徳明（日体大）、▼ライト級 佐々木洋一（明大）、▼ウェルター級 井川三千男（中大）、▼ミドル級 波山竜美（明大）、▼ライトヘビー級 浦田昇（中大）、▼ヘビー級＝出場なし

◇インターハイ（8月6～7日、広島・広島県立体育館）

《学校対抗戦》[1] 新潟・新潟商（2年ぶり2度目）、[2] 秋田・秋田商、[3] 岡山・津山、富山・滑川

《個人戦優勝者》▼52kg級 酒井三郎（群馬・館林）、▼55kg級 中井光雄（秋田・秋田工）、▼58kg級 抜川重勝（東京・東京実）、▼61kg級 新莊建彦（山口・柳井商工）、▼65kg級 飛田義治（新潟・新潟商）、▼69kg級 佐藤明弘（東京・三商）、▼69kg以上級 馬淵敏（富山・滑川）

◇全日本社会人選手権（8月26日、東京・青山レスリング会館）

《実業団対抗》[1] 日野A、[2] 東京日産自動車、[3] 京浜土地、日本カーバイト

《個人優勝者》▼フライ級 石黒成一（共和コンクリート）、▼バンタム級 山平義雄（清水食品）、▼フェザー級 石沢二郎（金十証券）、▼ライト級 神谷文二（東京クラブ）、▼ウェルター級 石川忠男（東京日産）、▼ミドル級 青海上（アトムロイ）、▼ライトヘビー級 新村国男（京浜土地）、▼ヘビー級 渡辺修（京浜土地）

◇全日本学生選手権（9月16～18日、東京・青山レスリング会館）

《フリースタイル優勝者》▼フライ級 古川鉄男（日大）、▼バンタム級 斎藤嘉章（中大）、▼フェザー級 渡辺長武（中大）、▼ライト級 堀内岩雄（日大）、▼ウェルター級 風間貞夫（明大）、▼ミドル級 蒲田昇（中大）、▼ライトヘビー級 大塚勇（法大）

《グレコローマン優勝者》▼フライ級 清水泰司（日大）、▼バンタム級 鈴木磯雄（明大）、▼フェザー級 岩室好純（明大）、▼ライト級 秋山行靖（早大）、▼ウェルター級 田代俊郎（中大）

◇東日本学生王座決定戦（10月13～14日、東京・青山レスリング会館）

中大○ [5 - 5 = 内容] ●日大

※中大は6年連続9度目の優勝

◇国体（10月22～25日、岡山・笠岡市）

《一般フリースタイル優勝者》▼フライ級 今泉雄策（東京）、▼バンタム級 松原正行（宮城）、▼フェザー級 斎藤嘉章（大阪）、▼ライト級 堀内岩雄（富山）、▼ウェルター級 風間貞夫（新潟）、▼ミドル級 石川忠男（千葉）、▼ライトヘビー級 佐々木竜雄（秋田）、▼ヘビー級 大塚勇（神奈川）

《一般グレコローマン優勝者》▼フライ級 花原勉（山口）、▼バンタム級 市口政光（大阪）、▼フェザー級 太田吉彦（岡山）、▼ライト級 佐々木洋一（秋田）、▼ウェルター級 阿久津英紀（岡山）、▼ミドル級 西森義之（茨城）、▼ライトヘビー級 丸山彰治（東京）、▼ヘビー級 稲葉泰久（神奈川）

《高校優勝者》▼52kg級 伊藤佑康（秋田）、▼55kg級 中沢博明（新潟）、▼58kg級 寺田尚吾（広島）、▼61kg級 中村文昭（東京）、▼65kg級 飛田義治（新潟）、▼69kg級 石井清（新潟）、▼73kg級 遠藤茂（宮城）、▼+73級 馬淵敏（富山）

※少年はフリースタイルのみ

◇西日本学生秋季リーグ戦（11月12～14日、大阪・大阪府立体育会館別館）

《順位》[1] 近大（初）、[2] 同志社大、[3] 関大、[4] 名商大、[5] 関学大

◇東日本学生秋季新人戦（11月17～18日、東京・青山レスリング会館）

《フリースタイル優勝者》▼フライ級 吉田嘉久（法大）、▼バンタム級 吉田義勝（日大）、▼フェザー級 橋本勝（早大）、▼ライト級 森田武雄（明大）、▼ウェルター級 西森義之（中大）、▼ミドル級 伊藤勝春（日大）、▼ライトヘビー級 佐々木竜雄（日大）

※フリースタイルのみ

◇関東学生対抗グレコローマン選手権（11月14日、東京・青山レスリング会館）=決勝記録

明大○ [5-2] ●中大

※明大は2年連続2度目の優勝

◇全日本学生王座決定戦（11月27日、大阪・近大）

中大○ [11-0] ●近大

※中大は6年連続11度目の優勝

